

第5章 豊かな自然資産・文化的資産を活用した地域活性化

1 自然資産・文化的資産を活かした観光振興

本県には、北に玄界灘、南に有明海と異なる性格を持つ海や広大な佐賀平野など、豊かな自然資産や、吉野ヶ里遺跡や佐賀城本丸歴史館などの歴史的な文化資産、さらには佐賀牛や呼子イカなどに代表される食資源が豊富に揃っています。

県では国内外からの観光客を誘致するため、こうした資産を活かした観光資源の磨き上げや国内外に向けた情報発信に取り組んでいます。

平成26年度においては、九州全体で売り出している、自然や温泉を満喫できるトレッキングコース「九州オルレ」の県内3コース（武雄、唐津、嬉野コース）を積極的にPRしたほか、来訪者からの評価が高い「食」にスポットを当てた「泊・食（ぱくぱく）♪佐賀旅キャンペーン」の取組を前年度より継続しました。

なお、平成26年度における本県への宿泊観光客数は前年度比7.2%増の2,875千人となりました。



【九州オルレ 県内3コース認定】

オルレとは、韓国済州島の方言で「家に帰る細い道」の意味で、済州オルレ協会が済州島の魅力を再発見するために提案しているウォーキングコースの名称です。その九州版として九州オルレが2012年3月よりスタートし、県内では武雄コースに続き唐津コース、嬉野コースが認定されました。本県へたくさんの観光客が訪れています。

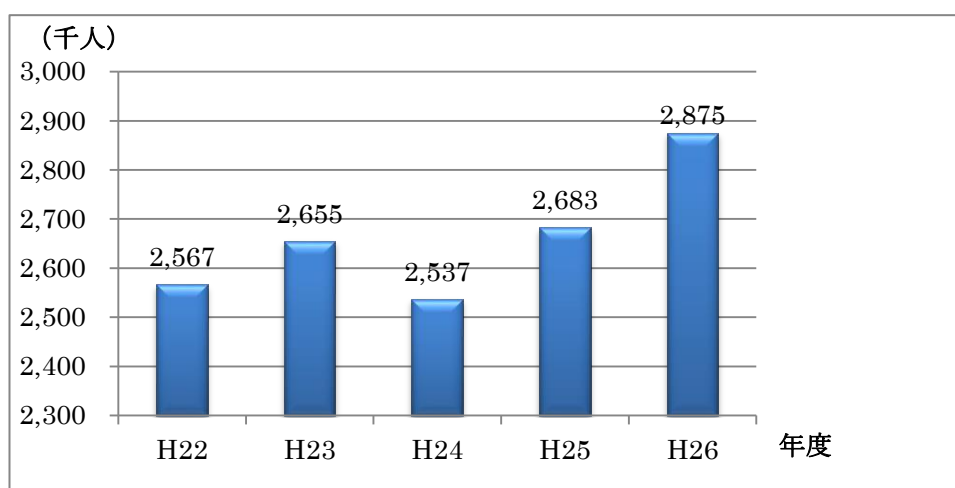


【ぱくぱく探検隊による情報発信】

本県の「食」の魅力を実際に取材し、周辺の観光資源と合わせて、その魅力を分かりやすく発信するため、ぱくぱく探検隊を結成しました。ぱくぱく探検隊が取材した内容は、県観光連盟のウェブサイト「あそぼーさが」を中心に広く発信しています。本県の「食」の魅力を、首都圏や関西地方、福岡都市圏における本県の知名度向上に活用していきます。

図 2-5-1 宿泊観光客数

資料：おもてなし課



○佐賀の観光情報 あそぼーさが

<http://www.asobo-saga.jp/>

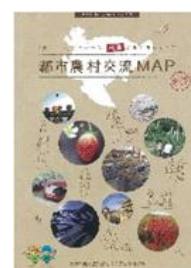
2 地域資源を活かした都市農村交流の推進

農業・農村が持つ豊かな自然環境や景観などの地域資源を活かした都市農村交流の活性化に向けて、「さが“食と農”絆づくりプロジェクト」において関係機関・団体と連携しながら、都市農村交流に取り組む地域や人材の育成、農業と観光業との連携強化などに取り組んでいます。

平成 26 年度は、さがグリーン・ツーリズム研究会と連携し、都市農村交流を推進するための研修会を開催しました。

また、さが“食と農”絆づくりプロジェクトのホームページ「きずなのひろば」やメールマガジン「がばい☆きずな」、Facebook を通して、消費者等に対し、農産物直売所や農業体験イベント、地域における絆づくり活動など、都市農村交流に関する情報を提供しました。

県内には、地元の新鮮な農産物や加工品が入手できる農産物直売所や観光農園、市民農園など農業や農産加工の体験ができる施設、農家レストランや農家民宿など、農業・農村の持つ魅力を楽しめる場所も多く、こうした場所を知ってもらい気軽に訪れてもらうため、平成 24 年度に作成した「都市農村交流マップ」を活用し、PRを行いました。



そのほか、旅館・ホテルの宿泊とセットになったぶどう・いちご・ブルーベリーの収穫体験など、地域の特色や農産物を活かした観光業との連携による取組も行われています。

表 2-5-1 観光農園、市民農園、オーナー園、農産加工体験施設の箇所数

資料：生産者支援課

年度	現状			目標
	H24	H25	H26	H27
箇所数	86	85	89	85

3 地域の特色や資源を活かした新しい地域の魅力づくり

(1) さが農村のよさ発掘・醸成事業（棚田地域保全活動支援事業）

棚田地域は、農業生産活動を通して、県土・環境や水源のかん養、農山村の美しい原風景の形成等の多面的機能を発揮しており、下流域や周辺地域を含めた農業の発展や県民生活の安定を図る上からも重要な役割を果たしています。

しかし、過疎化や高齢化が進む中、その地形的な制約から農業者だけでは労力的にも負担が大きく、耕作放棄の増加も見られます。

このため、魅力ある棚田資源を活かし、都市住民も交えた継続的な地域住民活動を推進することにより、農地等の有する多面的機能の発揮と地域の活性化を図っています。

- 実施期間： 平成 22 年度～
- 事業内容：
 - ・ 棚田地域保全活動組織（保全ボランティア組織）の結成、情報発信
 - ・ 耕作放棄地の復元、農道、畦畔、石積み、水路、ため池等の軽微な補修
 - ・ 四季に応じた景観作物の植栽による美しい棚田景観の形成
 - ・ 棚田を活かした農業体験等交流イベントなど



【地域住民による畦畔整備】



【棚田交流イベント】



【景観作物の植栽】

- 事業の効果： 実施地区数 15 地区（平成 26 年度迄）
 - ・ 都市住民との交流により地域農業や棚田の PR 等を行い、地区住民の営農意欲が高まった。交流活動などの取組を続けていきたい。
 - ・ 簡易な棚田の補修作業に取組み、地区棚田の保全が図られた。などの声が寄せられています。

佐賀県の棚田に関する情報は、さが棚田ネットワークのホームページ上に公開しています。

○さが棚田ネットワーク

http://www.pref.saga.lg.jp/web/shigoto/_1075/_32921/_35883.html

(2) 地域の魅力づくり

若年層の流出や高齢化が他地域よりも進んでいる離島や過疎地域等の条件不利地域の多くは、豊かな自然資産等に恵まれています。そこで、これらを活かした魅力ある地域づくりを、地域住民が自発的・主体的に行うことが求められています。

① 七色の島づくり事業

県内の七つの離島においては、それぞれに豊かな自然環境や固有の歴史、文化を有しています。七色の島づくり事業では、体験学習型交流イベントの開催や特産品の開発など、住民が主体となった、地域の特色を活かした取組みに対して支援を行っています。



【漁業体験交流】



【特産品の開発】

② 過疎地域自立促進支援事業

県と過疎市町で構成する「佐賀県過疎地域自立促進協議会」では、独自の助成制度により、地場産物を活かした特産品の開発など、会員団体の取組みに対する支援を行っています。

4 フィルムコミッション等の推進

佐賀県の豊かな自然や歴史的・文化的資産がテレビドラマや映画等に取り上げられ、県内外において佐賀の環境の素晴らしさが認識されるよう積極的な撮影の誘致を行います。

○佐賀県フィルムコミッション

<http://www.saga-fc.jp/>